



CHAdeMO



2014 活動報告書

(2014年4月1日~2015年3月31日)



CHAdeMO 協議会

ごあいさつ



会員の皆さまには、平素から電動車両並びに急速充電器の普及推進活動へのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当協議会は2010年3月に設立され、早いもので6年目の活動を迎えました。2014年度を振り返ってみますと、国内外ともに充電インフラ網の整備が大いに進み、いよいよ本格的な普及に至ったと感じさせる一年でありました。日本国内では、経済産業省による「次世代自動車充電インフラ整備推進事業」の推進の下、自動車メーカー4社を中心とした合同会社「日本充電サービス」が稼働を開始致しました。海外においても欧州を中心に急速充電器の設置が進み、全世界でこの1年間で2000基増加し（前年比50%増）、累計設置数は6,000基を越えるレベルになりました。

また、当協議会活動の柱の一つであるCHAdeMO仕様の標準化も順調に進捗致しました。V2Hに関しても仕様の標準化という機能面での拡張を図ったほか、充電規格に関しては、外部移管やバージョンアップといった形で検定制度の充実を実現してまいりました。

このように順調に進捗している当協議会の活動ではありますが、今後も、V2Hを活用した電力網への貢献の拡大、クラウド情報網とつながることによる充電器の新しい可能性の模索と充電器自体の利便性の向上、そして世界各国への情報発信を通じてのCHAdeMOに対する理解の促進等を図ることにより、電動車両とそのインフラの更なる発展に微力ながら努力して参りたいと思います。会員の皆さまにおかれましては、引き続きのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会長 志賀 俊之

標準化の活動

2014年10月にIEC DC 充電規格をJISとして正式に発行、北米ではIEEE規格化に向けてプロジェクトを推進中

2014年3月から6月にCHAdeMO仕様を含むIEC（国際電気標準会議）においてのDC充電器に関する国際標準規格が成立、DC充電のシステム、充電制御通信、コネクタ規格としてIEC61851-23/24、IEC62196-3として発行されました。

更に、このIEC規格の地域規格化も進んでおります。国際規格と地域規格を整合するということは、国際的に標準化された技術・製品がその国内で仕様変更することなく使えることを意味し、国際的な貿易の発展、円滑化に寄与します。国際規格化したCHAdeMO規格は各地規格としての採用が進んでいます。

日本では、2014年10月に国際規格と整合したJIS規格（日本工業規格）が、IEC規格の番号を引き継いだJIS D61851-23/24、JIS D62196-3として発行されました。

欧州では、上記IEC規格がEN規格として採用され、さらにDIN規格（独）やBS規格（英）として各国規格としても採用されています。

アメリカでもIEC規格に沿ったDC充電規格、IEEE SA - P2030.1.1が審議されており、近々規格化される見込みとなっています。

技術部会の活動

技術部会で2014年度から第三者検定機関によるver.1.0充電器の検定制度を開始しましたが、これまで1年間の検定実施は海外1件、国内1件にとどまっています。0.9検定に比べて大きく検定申込み数が減少した要因は、ver.1.0で新たに仕様として追加されたEMCなどの電源品質に関する要求事項の開発と試験にかかるコストが増加したことが影響していると考えられます。

さらに日本市場においてはちょうどタイミングを同じくして、経済産業省による充電インフラ整備事業に自動車4社による充電インフラ普及支援プロジェクトが追加支援されたことで、ほとんどの充電器メーカーが新規製品開発より年度内の納期を優先するという選択をおこなったと思われまます。

また、欧州市場ではEUによるDC充電プラグの標準規格をめぐる、域内の充電インフラ導入プロジェクトがEU規格からCHAdeMO充電器が排除されるかもしれないリスクから採用を躊躇する期間がありました。その後、Comboプラグを装備すればCHAdeMOも併用可能となったことで、市場ではCHAdeMOとComboの両方が使えるマルチ充電器が主流になりました。ところが、Combo充電器はまだ公式な試験基準が整備されていないため、既存のCHAdeMO充電器をマルチタイプに改造したときの検定体制が未整備のまま市場で製品化が先行するという事態が起っています。

技術部会では、これらの課題解決に向けて以下の施策を進めていく予定です。

- スマート充電などの付加価値を提供することでver.1.0への移行インセンティブを高める
- 海外では、Combo規格と協力してマルチアーム充電器の検定スキームを構築する
- 検定機関と協力して再検定指針など効率的な試験方法をガイドラインに反映する

仕様書 WG

2013年に発行した ver.1.0.1 標準仕様書および追補 1 は、安全性に関わるハードウェア要件や EMC 性能・測定方法の明確化など仕様書としての技術的な完成度を高めることに重点をおきました。それに対して 2014 年度の仕様書 WG では、ver.1.0 の機能向上を狙いとする仕様の見直し作業をおこなってきました。

2015 年 3 月に正会員に公開された改定案（ワーキングドラフト）には、次のような提案内容が盛り込まれています。

- 最大出力のダイナミックコントロール機能：充電器からの要求で充電中に最大出力を動的に変更できる。これにより、複数台同時充電を最適に制御する、電力負荷の状況によりコストを抑えるなどのサービスが可能となる。
- 小容量ケーブルの利用規定：小容量ケーブル特有のコネクタ仕様による安全確保を規定。ユーザの使いやすさ向上、コストダウンなどのメリットを持つ。
- メーカーオプションの導入：CHAdeMO のインタフェースを利用してメーカー独自のサービスを実現することが可能になる。

V2H-WG

CHAdeMO インタフェースへの V2H(vehicle-to-home)放電機能拡張は、2011 年 10 月に技術部会にて検討を開始しました。並行して、経済産業省の指導による 2012 年 3 月の燃料電池等活用調査委員会報告にて電気自動車を含む電動車両の充「放」電電気設備の規定が検討されましたが、CHAdeMO 技術部会として検討に合流し、同 6 月の設備の技術基準と解釈の改訂などに折り込まれました。また、同 4 月には電動車両用電力供給システム協議会（EVPOSSA）が設立され、普通充電器の互換性・安全性とともに V2H への対応も議論・検討されることになりました。

V2H の機能拡張仕様の詳細は、まずは 2013 年 5 月に EVPOSSA から「電動自動車用充電システムガイドライン V2H DC 版」として初版の規格が発行されました。さらに、インタフェースの詳細規定および標準仕様書との整合などを向上するための V2H-WG を正式に設置し、2014 年 4 月に V2H ガイドライン 2.0 を発行しました。その後も V2H 特有の追加機能への仕様追加のため改訂作業を続け、2014 年 11 月に V2H ガイドライン 2.1 を発行しました。また、これに対応する国内市場向け V2H 検定基準を 2015 年 3 月に発行するとともに、検定受付を開始しました。日本国内では今後、V2H システムを電力系統と連携動作可能とするため、JET（電気安全環境研究所）と協力して CHAdeMO のプロトコル検定と系統連系装置としての認証制度の 2 段階で運用することになります。

また、欧州をはじめとする海外でも認証機関と協力して各国・地域の系統連系の認証をすすめていく予定です。

整備部会の活動

2014年度の整備部会は、以下のように7月と12月に開催しました。

第22回（7月18日開催）では、日産自動車からEV初の商用車「e-NV200」の詳細な情報がいち早く紹介されたほか、マイダス・ラボからEVが電欠した際、その場に出向きEVからEVにレスキュー充電を行う「ORCA Inceptive」が紹介され、デモンストレーションも行われました。また、道路交通情報通信システムセンター（VICSセンター）からは2015年から予定されるFM伝送量を拡張する次期VICSサービスの紹介がありました。同システムでは緊急災害情報や急速充電器の利用状況など動的情報を提供することが可能になります。

第23回（12月18日）は充電インフラ整備をテーマに、開催しました。充電網整備推進機構と日本充電サービスの2社からは、充電サービスネットワーク構築に関するこれまでの取り組みと今後のネットワークの統合によるサービスの進化の計画が紹介されました。また、日産自動車、三菱自動車、次世代自動車振興センターの各社からワークスペースチャージングに関する取り組み、補助制度についてそれぞれ報告がおこなわれました。



充電器位置情報 WG

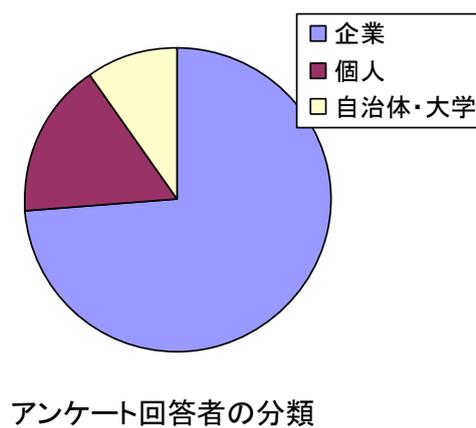
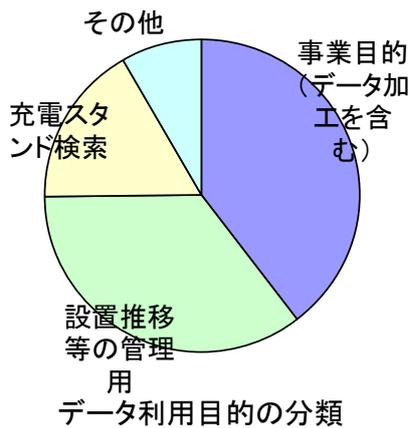
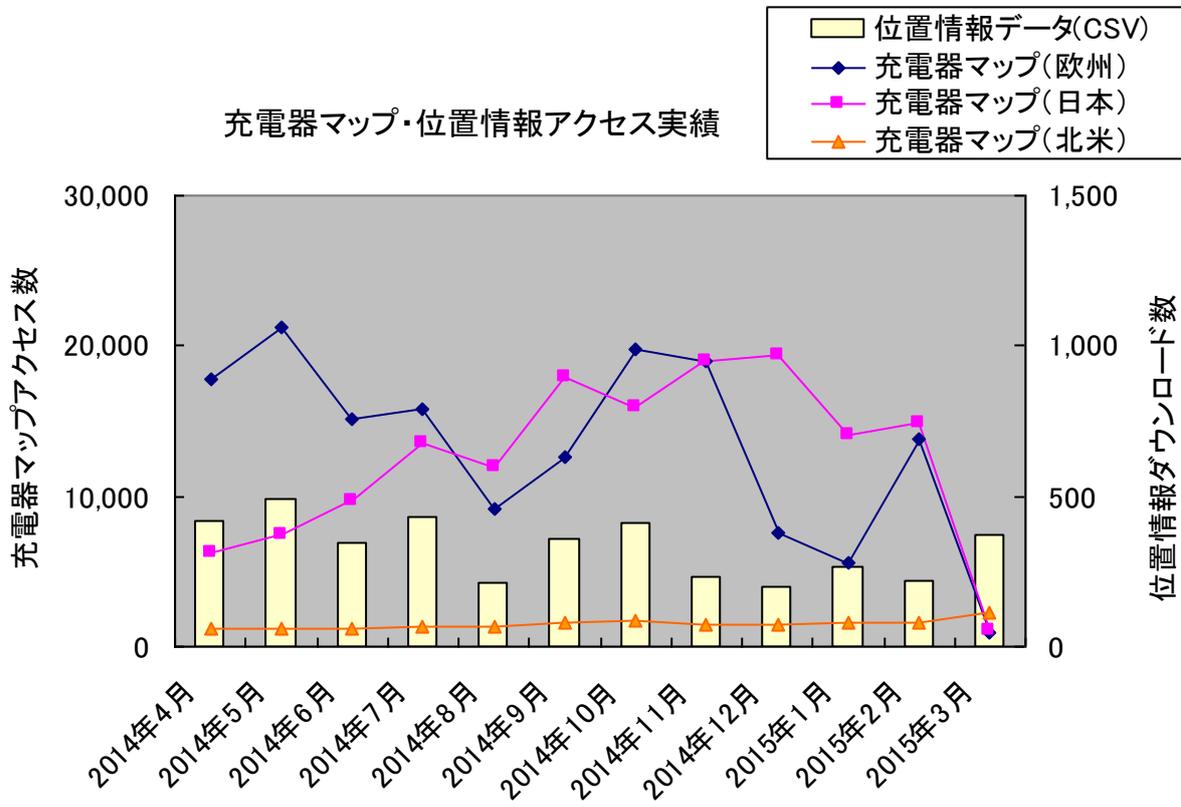
位置情報WGでは2013年3月よりCHAdeMO協議会のWebサイトからCSV形式のデータを公開しています。公開データには、急速充電器および普通充電器（100V/200V）設置充電施設の緯度・経度、利用可能時間、利用方法、料金が含まれます。情報更新は3ヶ月ごとに行なっており、グラフに示すように着実に利用されています。

2014年10月からは、データをダウンロード利用された方から任意でアンケートにご協力をいただいています。この結果、どのような目的で公開データが利用されているのかの一端が明らかになりました。

- ダウンロードの4分の3は企業からの利用で、主に事業用のデータ分析・加工処理を目的とし、設置状況の推移を見るために継続的に利用しているとの回答が多数。
- 個人の利用は少数で、その目的のほとんどは充電スタンドの検索。
- 自治体では自身の行政エリアの普及状況の確認に利用することが多い。

一方、Google マップによる一般利用者向けの情報提供については、日本、欧州とも毎月、1 万件程度の利用実績があります。2015 年 3 月には、Google サイトの API 変更により情報が中断してしまいましたが、4 月には改修が完了して情報提供を再開しています。

北米のマップはアクセス数が 1000 件程度にとどまっています。これは多くの利用者が携帯先の PlugShare マップを直接利用するためと思われます。



	新規ユーザ登録件数	アンケート回答数
2014年10月	34	19
2014年11月	28	9
2014年12月	12	6
2015年1月	21	9
2015年2月	21	16
2015年3月	11	6

日本国内の主要イベント

充電インフラ普及支援プロジェクト

経済産業省による充電インフラの戦略的な整備への支援は、平成 24 年度以降、政策、予算において主導的な役割を果たし推進されてきました。

国の支援に加え、自動車メーカー 4 社を中心に「PHV・PHEV・EV 充電インフラ普及支援プロジェクト」を設置、2014 年 5 月には、トヨタ、日産、本田技研、三菱自動車に加え、日本政策投資銀行、東京電力、中部電力の出資により「合同会社日本充電サービス」NCS を設立するに至りました。

同社においては、政府補助金でまかないきれない充電器設置者の費用を社会インフラ整備の一環として支払うこと、1 枚の充電カードでネットワーク全ての充電器を利用できる利便性の高いサービスを提供することで、充電インフラの推進を加速しようと考えています。（費用支払いの受付は 15 年 2 月末に終了しています）

NCS のネットワークに繋がった充電器には、下の標識が貼られ、ユーザは自分の充電カードでどの充電器が利用できるか、簡単に識別することができます。NCS ネットワークに繋がった充電器は、急速充電器約 4700 基、普通充電器約 6400 基、合計約 11000 基の 2015 年中設置の目途がたつなど、順調に拡大しています。

このような、官民一体となった活動により、ユーザにとって使いやすい充電インフラの普及が進んでいます。



出展：日本充電サービス <http://www.nippon-juden.co.jp/news/>

欧州事務局

チャデモ・アズ・EN 規格

DC 急速充電の IEC 国際規格の発行を受けて、欧州連合の公式標準化組織である CENELEC (欧州電気標準化委員会) が、チャデモを Combo2 と共に EN 規格 (欧州統一規格) として認定しました (IEC/EN 61851-23/24, IEC/EN 62196-3)。チャデモはマーケットにおける事実上のグローバル標準でしたが、2014 年秋に施行された EU 指令に加えて、DC 急速充電の欧州規格としても正式に認定されたことで法的基盤を強固にし、欧州におけるチャデモ充電器の設置が加速しました。チャデモ欧州事務所におきましても、会員向けおよび一般向け双方の各種サービスに一層力を入れた一年となりました。



会員向けサービス

欧州技術部会始動

チャデモ規格の R&D にもっと関わりたい、という欧州地域の会員各社からの強い要望を受けて、2014 年 1 月には正会員有志からなる欧州技術部会が立ち上がり、ほぼ毎月オンラインミーティングを重ねて規格改訂作業に参加しました。数回目の会合以降は日本の技術部会の参加も得て「日欧技術部会」として地域を超えたコラボレーションを展開し、欧州地域のマーケットニーズを規格の改訂に反映することができました。

チャデモ共同ブース事業の継続・拡大

2013 年度に開始した展示会への共同出展は好評を博し、今年度はこれを継続、占有面積を拡大して二つの主要な展示会に参加しました。

- **ハノーバーメッセ** (ドイツ・ハノーバー 2014/4) 会員企業 7 社の参画を得て、36 平米のブースを出展しました。チャデモ対応の商用車に加え、固定型、可動型、バッテリー内蔵型など多様な急速充電器、CE マーク取得の新型コネクタなど、各種のチャデモ関連製品を展示しました。



- **eCarTec** (ドイツ・ミュンヘン 2014/10) 欧州最大の E モビリティ展示会である eCarTec では、6 社との共同展示となりました。64 平米の大型ブースに日産 e-NV200 とシトロエン Berlingo Electric の二台の商用車を展示し、3 社の急速充電器と 1 社のコネクタが周りを彩りました。ミュンヘンでは eCarTec にあわせて会員年次総会を開催したこともあって、欧州地域の多くのチャデモ会員企業が一同に会する好機となりました。

第5回欧州年次総会(ミュンヘン)

恒例となった欧州会員の年次総会は、今年は eCarTec 展の最終日に展示場内の会場で開催することで会員の皆様が参加しやすいように工夫し、20か国近い国や地域から70人余りが集まりました。午前中は会員総会、午後は正会員向けの技術研修と、一般公開の急速充電会議の二つから選べるようにしました。

■ 会員総会

チャデモ V2H 拡張、IEC/EN 標準化の進捗状況、第三者機関による検定体制、EU 指令の最終文案等の事案が次々に報告された後、会員自身による欧州チャデモの将来像に関するブレインストーミングセッションがあり、活発な意見交換がありました。この討議内容は幹事会での更なる検討の上、欧州チャデモの組織戦略に反映される予定です。



■ 技術部会ワークショップ

2014 年初より開始した欧州技術部会の活動のまとめの意味も含め、チャデモ技術部会仕様書 WG の灰田武史リーダーと V2HWG の今津知也リーダーの二人が、正会員企業を対象に、欧州では初めての「チャデモ基本講習」を開催しました。チャデモ 1.0 や V2H 対応および検定に関する細かい技術内容を直接エキスパートに聞ける場とあって、会には多数の参加者があり、好評を博しました。

■ 第1回 欧州急速充電会議

午後のセッションでは、チャデモ規格を超えて広く急速充電を広めることを目的に急速充電に特化した会議としては欧州で初めてとなる「欧州急速充電会議」を主催しました。急速充電インフラ事業のベストプラクティスを共有することを目的に、イギリス、ノルウェー、スウェーデン、スペイン、オーストリア、フランス、日本から、官民双方の分野を代表するスピーカーを招きました。



各地での充電インフラ運営事例や政府の施策例が紹介され、事業で有効だった

こと、うまくいかなかったこと、今後改善すべき点等について率直な意見交換がありました。各種プレゼンテーションを通じて、「EV ドライバーの顧客体験を向上するために、どのように急速充電インフラの運営を改善すべきか」という主題に関わるキーワードが共有され、参加者は熱心にメモを取ったり質問をして理解を深め、急速充電に関わる事業者のネットワークの好機となりました。



EU 指令発効: 欧州 PR ツアー

EU 代替エネルギーインフラ整備指令(2014/94/EU)の発効(2014年10月)に伴い、欧州各国政府の担当官に指令の詳しい内容や市場へのインパクト、チャデモのポジション等について理解を深めてもらえるように、チャデモ PR ツアーを編成しました。

■ **北欧訪問** 急速充電インフラの整備を先導する北欧諸国は、欧州 EV 市場のマーケットリーダーでもあり、その政策が EV 市場の方向性に大きな影響を与えることから、PR ツアー第一弾の訪問先としてスウェーデン、ノルウェー、フィンランド、エストニアを選びました。チャデモ欧州事務所の青木浩行アドバイザー(東京電力ロンドン事務所)が PR ツアーの団長となり、日産からのエキスパートの参加を得て 2014 年 8 月に各国を回り、歓待を受けました。ツアーのハイライトはエストニアのアン・サリング経済コミュニケーション相との面会で、2011 年に 160 基の急速充電器を導入した同国のチャデモ支持を改めて確認しました。



■ **中・東欧訪問** 2014 年秋から冬にかけては、EV インフラ整備があまり進んでいない中・東欧諸国をターゲットに、オーストリア、スロバキア、ハンガリーを訪問しました。EU 指令の国内法対応を担当する省庁の担当者、充電器のディストリビュータ、充電インフラのオペレータなど、業界関係者との会合を重ね、EU 指令や欧州 EV 市場に関する情報を共有すると共に、国の方針やマーケット情報を得ることができました。訪問先で新規会員企業を獲得するという嬉しい成果もありました。

広報活動

国際会議での発表

チャデモ欧州では、急速充電に関する啓蒙活動や、急速充電インフラ早期導入事案から得られたナレッジの共有に注力しています。既存事業に関する情報を発信し、新規に急速充電インフラの導入を目指す事業主との知見の共有を促すことを目指して、各種国際会議でのプレゼンテーションの機会に対応しています。

- **スマートシティ会議 (オランダ・アムステルダム 2014/5)** 欧州チャデモの代表幹事会社である ENDESA のホルヘ・サンチェス E モビリティ担当部長が参加し、急速充電インフラ導入事例を紹介しました。
 - **EEVC 2014 (ベルギー・ブリュッセル 2014/12)** 欧州チャデモの青木浩行アドバイザーが、チャデモを代表し、マルチ充電器が主流となっている欧州の市場動向などについて発表しました。
 - **ASSISES (フランス・ニース, 2015/2)** 欧州チャデモのブレッシュ知子事務局長が、フランス最大の充電インフラ会議 ASSISES で欧州の EV 市場の変遷やマルチ充電器市場の加速・拡大について話しました。



世界最大の EV ラリー-WAVE 杯出場

急速充電の利便性を広く一般に伝える活動の一環として、2014 年 6 月～7 月にかけて、チャデモチームが世界最大の EV ラリー「WAVE 杯(The WAVE Trophy)」に出場しました。チャデモ欧州事務局のナタリア・コズドラ会員リエゾンオフィサーが率いるこのチームは 10 日間に渡ってドイツ、オーストリア、スイスの3か国、2 千キロを走破しました。車はプジョーの商用車「パートナー」で、荷台にチャデモ会員の EVTEC (スイス)社提供の可動式充電器を積んで、ラリーのルートで急速充電を行いました。同ラリーに参加した 11 台のチャデモ対応 EV にもこのポータブル急速充電を使ってもらい(時には「電欠」の車のレスキューに向き)、ラリー期間中に実に 66 回もの急速充電を提供しました。チャデモ対応 EV で参加した 2 チームが「WAVE 人気投票」で 2 位、3 位に入賞し、表彰式の際にチャデモ充電器の温かい貢献に賛辞を贈ってくれたのが印象的でした。



会員・一般向け広報活動

チャデモ欧州事務所では、今年度も、各種メディアを通じた会員向け・一般向け双方の情報発信に努めました。

- **欧州チャデモニュースレター** 会員向けニュースレターは、1-2 か月に一回の頻度で、欧州地域のチャデモ会員の皆様に E メールで送付しています。内容はチャデモ協議会の活動、規格の標準化の進捗状況、会員企業のニュースや大規模急速充電インフラ事業の情報などで、会員の皆様と欧州事務局の間の直接対話の窓口となっています。
- **ツイッター** 欧州チャデモのツイッターアカウント ([CHAdEMO_eu](https://twitter.com/CHAdEMO_eu)) は 2013 年度に開設されました。さほど頻繁にツイートをしたわけではありませんが、この一年間でフォロワーの数が 3 倍に増えました。特に四半期ごとにまとめて発表する欧州の国ごとの急速充電器設置数が人気で、リツイートされたり、EV メディアの記事に取り上げられるケースが増えています。
- **記事** チャデモの英語版ウェブサイトでは、急速充電インフラ整備に関わる各種の大規模事業や、EVドライバー調査の結果など、EV 充電に関わる情報を掲載したり、欧州連合の指令に対するチャデモとしてのポジションペーパーを発表したりしています。
- **インタビューや調査への対応** この他、メディア対応、研究者からの質問票、コンサルティング会社や卒論を書いている学生からのインタビュー依頼等、チャデモ欧州では各種のお問い合わせに丁寧に対応することを心掛けています。

2014 年度活動サマリ

	2014年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2015年 1月	2月	3月
幹事会 総会・欧州会議	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★★★
		★(5/20)CHAdemo総会					★(10/23)欧州会議					
技術部会	★(4/21) V2HガイドラインDC2.0公開 ★(5/8) コネクタ性能確認書Ver.1.1公開							★(11/14)V2H/Lガイドライン2.1版公開		★(1/22)V2H/L検定基準DC1.0版公開 ★(3/27)V2H/L検定基準 DC1.1版公開		
整備部会 位置情報共有化WG				★(7/18)#22 ★(6/27)更新			★(9/30)更新		★(12/18)#23 ★(12/26)更新			★(3/27)更新
国際標準化	★(4/24)IEEE P2030.1.1			★(8/18)PT23 Compliance SWG			★(12/6)TC69 Plenary meeting@Tokyo					
		★(5/12) IEC 62196-3発行				★(10/20) JIS発行				★(3/30)IEC MT5@Munich		
							★(11/4-7)IEC MT5@Tokyo					
充電器検定実績		★PNE SOLUTION(韓国) ★INGETEAM POWER TECHNOLOGY(スペイン) ★ハセテック ★Ensto Finland Oy ★Hong Kong Productivity Council		★日鉄住金テックスエンジ ★キューヘン ★新電元		★Andromeda(アメリカ) ★シンフォニアテクノロジー		★サイカワ				
広報・渉外活動など	★Hannover Messe ★WAVE rally 2014					★ ジャパンEVラリー白馬2014 ★(10/21-23) eCarTec Munich ★ 日経SmartCityWeek						

仕様書WGの開催実績

	開催日	主な議題
仕様書SWG	4月3日	EMC性能検討
仕様書SWG(2)	4月18日	EMC性能検討
第6回仕様書WG	5月13日	拡張仕様項目審議, 車両絶縁抵抗
第7回仕様書WG	6月17日	拡張仕様項目審議, H/W追加要件
第8回仕様書WG	7月28日	拡張仕様項目審議, オプション追加審議
第9回仕様書WG	9月16日	WG体制説明, 仕様書改定案審議
第10回仕様書WG	10月10日	仕様書編集方針, 仕様書改定案審議
仕様書改定案回付	11月14日	
第11回仕様書WG	1月20日	仕様書改定案コメント審議
第12回仕様書WG	3月2日	仕様書改定案コメント審議
第1回大出力化SWG	3月31日	最大出力の拡張検討

仕様書WG参加企業:

日産, 三菱自動車, トヨタ, 富士重工, ホンダ, スズキ, マツダ, いすゞ, Tesla
東光高岳, ハセテック, 日立IE, 富士電機, 高砂製作所, 日鉄住金テックスエンジ,
矢崎総業, 住友電工, 新電元, 菊水電子, ニチコン, ベクタージャパン, TUVラインランド,
現代自動車, 東京電力(主査・幹事)

コネクタSWGの開催実績

	開催日	主な議題
第22回SWG	10月24日	V2H用コネクタ, 小径ケーブル対応

コネクタSWG参加企業:

矢崎(主査), フジクラ, 住友電気工業, 日本航空電子, 大電, 古河電気工業

V2H-WGの開催実績

	開催日	主な議題
第18回	4月24日	活動スケジュール, ガイドライン要望, 検定書審議
第19回	5月29日	EVPOSSAとの連携, V2H検定仕様書, V2L検定方針
第20回	6月12日	系統連系WG報告, 検定仕様書審議
第21回	6月26日	検定項目審議
第22回	7月17日	検定項目審議
第23回	7月29日	国別ローカライズ対応, 系統連系WG報告, 検定方針
第24回	8月22日	経産省HEMS-TF報告, 系統連系WG報告
第25回	9月18日	WG体制連絡, 検定書・自己申告書審議
第26回	9月25日	V2L検定, V2Hコメントシート審議, ECHONET-Lite
第27回	10月16日	V2L検定, V2Hコメントシート審議
第28回	10月30日	V2Hコメントシート審議, 検定書改訂案
第29回	11月20日	系統連系認証WG報告, 検定書・ガイドライン改定案
第30回	12月4日	系統連系認証WG報告, V2H/V2L検定書審議
第31回	12月10日	系統連系認証WG報告, V2L検定書審議
第32回	12月16日	検定書・自己申告書審議
第33回	12月24日	V2H/V2L検定書審議
第34回	1月15日	系統連系仕様確認, 検定運用方針
第35回	1月28日	V2H/V2L検定基準, 系統連系試験項目
第36回	2月12日	コネクタ性能確認書, 検定関連ドキュメント審議
第37回	2月26日	ドキュメント, 検定基準審議
第38回	3月10日	ドキュメント, 検定基準審議

V2H仕様拡張WG参加企業:

三菱自動車, トヨタ, ホンダ, デンソー, パナソニック, シャープ,
日立IEシステム, 三菱電機, 富士電機, 高砂, ニチコン
矢崎, 住友電工, 東京電力, 椿本チエイン, 日産(主査・幹事)

整備部会開催実績

開催日	参加者	主な議題	発表者
第22回 7/18	98	日産EV 初の商用車「e-NV200」について EVtoEV急速充電器“ORCA Inceptive” 次期VICSサービスとEV施設情報の提供 ジャパンEV ラリー白馬	日産自動車 マイダス・ラボ 道路交通情報通信システムセンター(VICSセンター) 日本EVクラブ
第23回 12/18	110	会員制急速充電器ネットワークサービス『チャデモチャージ』の活動報告 NCSネットワークサービスのご紹介 ワークスペースチャージング、通勤モニタの取組み 従業員用駐車場への充電器設置の取組み 次世代自動車充電インフラ整備促進事業における従業員向け駐車場の扱いについて	充電網整備推進機構 日本充電サービス 日産自動車 三菱自動車工業 次世代自動車振興センター

幹事会開催実績

開催日	主な議題
4月11日	2014総会議案, V2Hガイドライン発行, GENELEC状況
5月30日	新幹事(パナソニック), 組織体制案, V2H検定
6月13日	V2H系統連系認証, 組織体制案
7月25日	海外車両対応, V2V充電システム, 組織体制案
8月29日	IEC活動報告, 日独充電JTWG報告, 系統連系認証WG報告
9月29日	IEEE活動状況報告, IEC報告, 系統連系認証WG報告
10月31日	日独DC充電会議報告, 欧州総会報告, 技術文書管理
11月29日	V2H系統連系認証, V2H設置ガイドライン, 組織体制案
12月19日	V2Hペースメーカー対応, 整備部会開催計画, 組織体制案
1月16日	ペースメーカー対応, 会員入退会管理, 組織体制案
2月13日	経産省インフラ整備事業, 技術部会の課題, 組織体制案
3月12日	欧州事務所体制, 活動予算, 組織体制案
3月27日	コミュニケーションWG報告, インド規格動向, 組織体制案

幹事会社: 日産, 三菱自動車, トヨタ, 富士重工, 東京電力
ホンダ, 日立, 富士電機, パナソニック